

### 3. グローバル・ガバナンスの問題

#### ■ 大前提

- ◆ 国際社会には中央政府は存在していない。
    - ◆ 国連は一国内の政府のような権限、行政能力も十分な予算もない。
  - ◆ 現在の国際社会の構成原理は国家主権であり、この権威の上位のものは認められていない( 政治的独立、領土保全、内政不干涉原則)。
- 国際的な資源・環境問題に対する国際的あるいはグローバルなガバナンス(統治あるいは舵取り)は可能か。

#### 3.1 地球環境問題認識の高まり

- 国連人間環境会議 (UNCHE:1972年、ストックホルム)
  - 「人間環境宣言」と環境保護のための国際的行動計画の採択
  - 国連環境計画 (UNEP)の設立について合意
- 国連環境開発会議 (UNCED:1992年、リオデジャネイロ)
  - 「環境と開発に関するリオ宣言」、「アジェンダ21」、「森林原則声明」の採択
  - 「気候変動に関する国際連合枠組み条約」(94年3月発効)と「生物多様性条約」(93年12月発効)が各国の署名のために開放された。
  - 「持続可能な開発委員会」(CSD)の設置
- 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD:2002年、ヨハネスブルグ)
  - 実施計画、政治宣言、タイプ2文書:パートナーシップ

## 3.2 地球環境問題への取り組み

- 300ほどの主な国際環境問題関連の条約や議定書
- 分類例
  - ◆ 酸性雨問題: 長距離越境大気汚染条約(1979年採択)
  - ◆ 成層圏のオゾン層問題: オゾン層保護のためのウィーン条約(1985年)およびオゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書(1987年)
  - ◆ 捕鯨問題: 国際捕鯨取締条約(1946年)
  - ◆ 象牙貿易問題: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約(1973年)
  - ◆ 有害廃棄物取引問題: 有害廃棄物の国境を越える移動及びその処分に関するバーゼル条約(1989年)
  - ◆ 南極の環境保護: 南極条約(1959年)
  - ◆ 気候変動問題: 気候変動に関する国連枠組条約(1992年)および京都議定書(1997年)
  - ◆ 生物多様性の喪失: 生物に多様性に関する条約(1992年)およびバイオセーフティに関するカルタヘナ議定書(2000年)
  - ◆ 砂漠化: 砂漠化対処条約(1994年)
  - ◆ 特定有害化学物質と農薬の国際取引における事前通知・承認の手続き(PIC)に関するロッテルダム条約(PIC条約)(1998年)
  - ◆ 残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約(POPs条約)(2001年)

## 3.3 地球環境ガバナンスとは

### 3.3-1 「ガバナンス」の定義

- ガバナンスというのは、個人と機関、私と公とが、共通の問題に取り組む多くの方法の集まりである。相反する、あるいは多様な利害関係の調整をしたり、協力的な行動をとる継続的なプロセスのことである。承諾を強いる権限を与えられた公的な機関や制度に加えて、人々や機関が同意する、あるいは自らの利益に適うと認識するような、非公式の申し合わせもそこに含まれる。

...グローバルなレベルでは、ガバナンスはこれまで基本的には政府間の関係とみなされてきたが、現在ではNGOs、市民運動、多国籍企業および地球規模の資本市場まで含むべきものと考えらるべきである。...

また、特定の制度、あるいは一連の決まった制度があるわけでもない。...変化を続ける状況に対して、常に発展し反応する、広範で、ダイナミックで複雑な相互作用による意思決定のプロセスである。

- ◆ グローバル・ガバナンス委員会「地球リーダーシップ」(NHK出版会、1995年)[Commission on Global Governance, *Our Global Neighbourhood* (Oxford:Oxford University Press, 1995)].

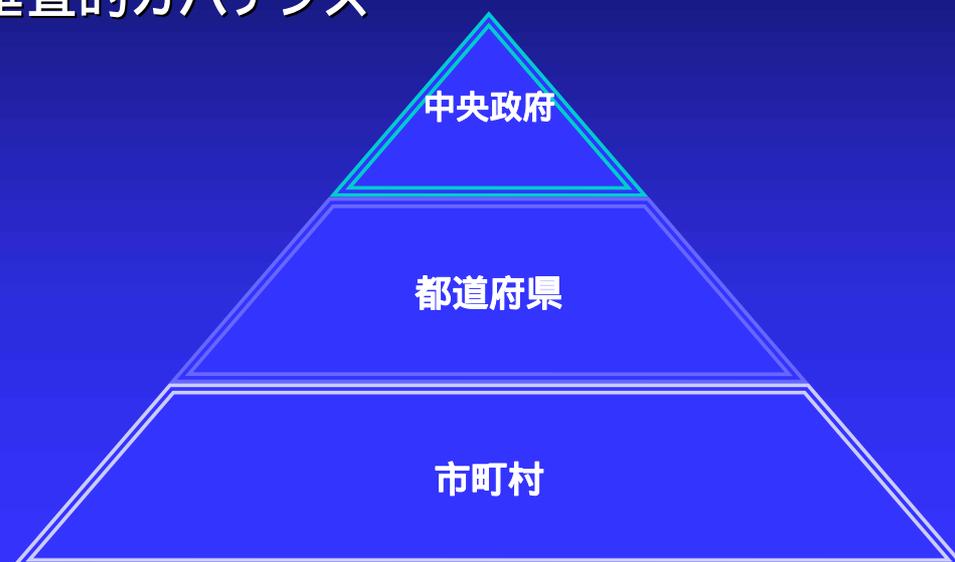
## 3.3-2 ガバナンス関係の種類

### ■ 水平的ガバナンス



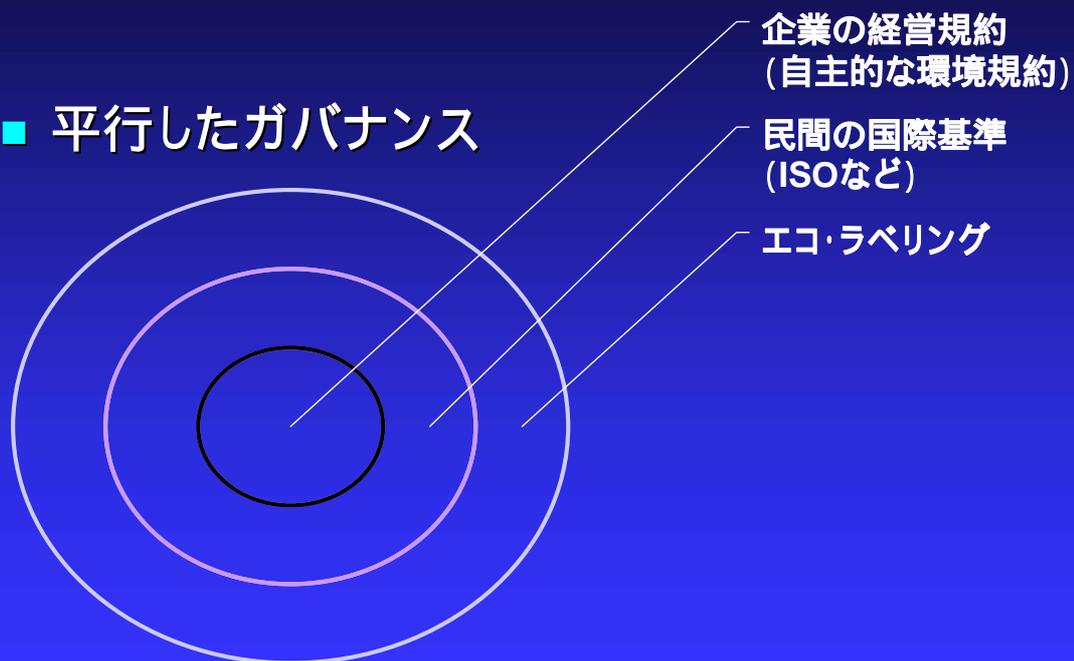
## 3.3-3 ガバナンス関係の種類

### ■ 垂直的ガバナンス



### 3.3-4 ガバナンス関係の種類

#### ■ 平行したガバナンス



### 3.3-5 ガバナンス関係の種類

#### ■ 交差するガバナンス

